

協議会活動 アラカルト

＊ 広報・啓発活動

ESDウィーク

10月から11月を中心に、岡山ESDプロジェクトに参加している公民館、市民団体、学校等が、ESDに関する様々な事業を開催しています。多くの人々にESDに関心を持ってもらい、参加することで、お互いが学びあうことも目的としています。持続可能な社会を目指し、「共に考え」「共に学び」「共に行動し」ESDの輪を広げていく協議会にとって大切な期間です。



イベントブース出展

「ESDに興味関心を持ってもらう」ことを目的に、市内で開催される様々なイベントにブース出展をしています。「ミコロ・ハココの未来工房」では、工作を通して自然に触れたり、資源の大切さなどを学びます。



サステナガールズ・トークセッション

持続可能な未来へとつながるビジョンを持ち、様々な分野で活躍している素敵な女性。それがサステナガールです。トークセッションでは、参加者も交えたおしゃべりの中から、暮らし方や生き方、ライフスタイルという視点で、持続可能な社会づくりに向けたヒントを探ります。

＊ 他地域との交流

海外RCEとの交流



2005年の認定開始からのRCEメンバーとして、RCE岡山は、グローバルRCE会議、アジア太平洋RCE会議などに参加し、活動内容や事例の発信、海外RCEとの交流を進めています。2014年にはESDの10年の総括となる「グローバルRCE会議」が岡山中で開催されます。(11/4～7)



海外ESD実践者との交流

2012年6月7日(木)～10日(日)に、ユネスコおよびユネスコアジア文化センター等と「ESD Riceプロジェクト」の一環で、アジアワークショップを開催。タイ、韓国、フィリピン、国内などから集まった教育関係者と、お米をテーマとしたESD実践について、経験や知識を共有するとともに、岡山の農家との意見交換、小学校や高校への視察などを通じて、交流を深めました。

国内RCEとの交流

RCE岡山をはじめとする国内6RCE(仙台広域圏、横浜、中部、兵庫-神戸、岡山、北九州)は毎年1回RCE実務者会議を開催し、情報交換や連携のための話し合いを行っています。



＊ ESD活動支援・交流支援・研修

重点取組組織の活動助成

ネットワーク構築のきっかけづくりとして、重点取組組織の交流会を開催しています。活動内容を紹介し合い、実践者の方々が議論や協議を行います。各団体で取り上げているテーマや活動内容も違いますが、情報交換を行うことで互いに「つながり」「深める」ことができるよい機会となっています。ユネスコスクールも含めて活動助成金による財政的な支援も行っています。



ESD研修サポート

地域団体・学校・重点取組組織などからの相談を受けて講師を紹介するなどして研修をサポートしたり、教職員や市民対象に研修会を開催したりしています。

研修は参加型のワークなどの活動を取り入れ、グループでのディスカッションを通じて意志疎通を図るなど知識のみの獲得ではなく、思いを共有することも大切にしています。

いろいろな団体同士が、共に考え共に学ぶ場を提供することも協議会の役割です。



ESDカフェ

持続可能な社会づくりを進めていくため、さまざまな人が集まり、立場や役職に関わらず自分の思いや疑問を話し合い、対話を進めていくためのやさらかな「場」がESDカフェです。環境学習センター「アスエコ」の共催で、毎回様々な分野のゲストをお迎えして、環境、経済、社会、文化、歴史など多様な切り口から話題を提供していただきます。

おいしいコーヒーを準備してお待ちしています。お気軽にご参加ください。

日時：毎月第3木曜日 18：30～20：00（原則）

場所：環境学習センター「アスエコ」（岡山市北区下石井）



創造ワークショップ

ESDウィークでの自主企画の実施を目的として、創造ワークショップを実施しています。アイデアを出し合い、議論し、参加者で企画を作り上げていきます。オリジナルの企画が提案され、いくつかのアイデアをコラボレートしてよいアイデアに作り上げることもあります。参加者はワークショップの経験を通じて、さらにパワーアップしていきます。



出前講座

公民館や地域へ出かけて「ESD」についてわかりやすくお話しをしたり、ともに考えたりする出前講座を開講しています。地域でもESDについて知りたい、やってみたいという思いがふくらんできているようです。

岡山発『ESD岡山モデル』

岡山モデルとは

従来から…

岡山の人々は、穏やかな自然を農業（干拓）等に隔々まで活用し、自然と共存してきた歴史がありました。

ところが…

自然・生活が薄いと

「地域的多様性＝多様

1 多種多様な団体や人がESDに関わる『場』が提供されている。

- 「つながる機会」→「対話」→「学び合い」が創出されている。
- 多様な団体が学びあえる「ゆるやかな」ネットワークが存在する。
- ESDに取り組む団体・市民の増加とエリア的な広がりがある。

そうだ！
ESDに
取り組もう！

2 行政により主体的かつ継続的なESDの推進が行われている。

- 安定性・組織力・既存のネットワークの活用・信用がある。
- ESDが地域社会全体の公共的施策（新しい公共）として地域へ受け入れられている。



岡山はESDが根付く土壌があったんだ。

3 専従コーディネーター（事務局配置）に

- 継続したサポートがある。
- 地域内外の多様な団体を結ぶことができる。

今後の展望

●ゆるやかなネットワークを保ちながら、行動する団体を増やしていく。

●行政が継続して事務局運営を行いつつ、課題への対応を進めていく。

●ESDコーディネーターに必要な資質・能力を分析し、コーディネーターの育成システムの構築を行う。

●公民館を活かして、地域の様々な組織が地域課題に取り組むとともに、グローバルな課題とも結びつけていく。

2005年から岡山市域で行われてきたESD推進の方法・仕組みです。

の持続可能性に対する危機感
う課題がありました。



戦後の産業構造・ライフ
スタイルは変化して…

- ◆都市化の進展
- ◆社会構造の変化による自然との関わりの変化
- ◆社会課題の顕在化

「新たな地域課題」の明確化

岡山 モデル

4 公民館を拠点としてESDを推進している。

- 地域住民への「学ぶ場の提供」がある。
- 公民館職員がコーディネーターとして、NPO・市民活動・地縁組織のネットワークづくりに関わっている。
- 公民館が社会教育機関として再認識されている。
- 地域住民の活動をESD的視点から意味づけができています。

5 地域が主役、大学はサポーターとなって 応援している。

- 大学による地域のESD活動への連携・支援を行っている。
- 専門的視点を活用することで地域の人々だけでは発見できなかった「気づき」があり、地域の魅力の再発見につながっている。

によるサポートが行われている。

- 関係者との信頼関係・協力的なネットワークができる。
- 外部勤務経験を活かした新たな視点で見ることができる。



●大学等高等教育機関がESDのより多くの分野へ参加し、地域社会と結びつくように、マッチングの充実を図る。

●ESD活動が「持続可能な未来づくり」のための人づくりとなっているかについて、指標設定・検証方法を確立し、分析・解析していく必要がある。

●市内小・中学校ユネスコスクールでESDを推進。
●活動面、資金面でユネスコスクールをサポート。